

# I

## 本プロジェクトの概要

## 本プロジェクトの概要

東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター第二部門（教員養成プログラム研究開発部門）では、大学における教員養成カリキュラムの中の「教科」に関わる構成要素のありようを横断的に検討することを意図し、2004年度以来「教員養成における教科教育・教科専門の関連構造」プロジェクトを組織している。

特に2007年度は、教職大学院（教員養成の専門職大学院）の発足を翌年に控え、大学院レベルでの教員養成における教科教育・教科専門のありようの問い直しを含めての改編が多くの大学で行われていることから、大学院段階の教員養成に焦点を絞り、そこでの「教科実践力」強化のプログラムの動向についての検討をメインテーマとすることとした。幸いにして、広域科学教科教育学研究経費（大学院研究経費）「教育系大学院における教科教育プログラムの実践性に関する調査・開発研究」（研究代表・岩田康之、1,227,000円）の交付を受けることができたため、調査研究や研究会開催等の活動の裏打ちが得られた。

今年度の共同研究員は、主に学内の教科教育の教員を中心に、以下の方々に委嘱した。これらに坂井俊樹センター長、および専任教員の三石初雄・岩田康之・上杉嘉見・山崎準二が加わった研究組織となった。全体のコーディネータは第二部門・岩田康之が務めた。

筒石賢昭（音楽教育学・教授）  
田中喜美（技術科教育学・教授）  
福地昭輝（理科教育学・教授）  
藤井穂高（教育学・准教授）  
松田恵示（体育科教育学・准教授）  
渡部竜也（社会科教育学・講師）

また、本センターの外国人客員教授・南景熙氏（ソウル教育大学・社会科教育／2007.9.1～2008.2.29）には、随時研究会に参加いただき、広い視野からの助言をいただく機会を得た。今年度の会合は、以下のとおり開催している（場所はいずれも本センター会議室）。

第一回会合：2007年9月11日（火）

研究計画の立案・スケジュールなど

第二回会合：2007年10月12日（金）

質問紙調査の内容・方法等に関する検討

第三回会合：2007年11月22日（木）

質問紙調査の集約、および第二次調査の計画

ワークショップ：2007年11月30日（金）

「教科実践力を大学院で伸ばす」（参加約20名）

第四回会合：2007年12月28日（木）

第二次調査（訪問）、および報告書のとりまとめについての検討

第五回会合：2008年2月1日（金）

橋本光明氏（信州大学）をお呼びしての研究会

第六回会合：2008年2月21日（木）

報告書原稿の検討

本プロジェクトではまず、大学院段階での教科実践力強化の取り組みの概要をつかむべく、日本教育大学協会研究大会（2007年10月20日・福井大学）の第二分科会「既存大学院教育学研究科の改革の取り組み」に参加し、金沢・香川・新潟・福井4大学の取り組みの動向に関しての情報を得た（本報告書Ⅱ-2）。その後、このプロジェクトで、大きく以下の四つの課題に取り組んだ。

①. 国立・私立の教育系大学院（修士・博士）70校対象の質問紙調査（10～11月）

大学院修士課程における「教科実践力」強化プログラムに関して、国立の教員養成系大学に置かれている教育学研究科のみならず、国立の一般大学に置かれている教育学関係の研究科、および私立大学の教育学関係の研究科をも含めて70大学を抽出し、「大学院改組の状況」「教科実践力強化」の取り組みの具体相等についての概要を把握することを試みた。11月末までに29の大学院より回答を得た（回収率41.4%）。これについては本報告書のⅡ-1に粗集計を、巻末に質問紙を掲載している。

②. 教育系大学院対象の第二次調査（1～2月）

①の回答を検討した結果、大学院段階の教員養成において「教科実践力」強化プログラムで特色ある取り組みを行っていると思われる大学院に対しては、訪問調査を行うとともに、関連する資料の提供を依頼した。訪問調査先と担当者は以下のとおり。

山形大学大学院教育学研究科（山崎準二）  
愛知教育大学大学院教育学研究科（上杉嘉見）  
岡山大学大学院教育学研究科（松田恵示）  
鳴門教育大学大学院学校教育学研究科（渡部竜也）  
長崎大学大学院教育学研究科（岩田康之）  
宮崎大学大学院教育学研究科（渡部竜也）

この訪問調査のレポート、および関連資料については、本報告書のⅡ-3の各パートに採録されている。

なお、香川大学大学院教育学研究科の取り組みに関しては、以下のワークショップ報告書の中で関連資料の照会を行っている。

③. ワークショップ「教科実践力を大学院で伸ばす」の開催（11月30日）

教員養成GPに採択されている香川大学大学院教育学研究科の事例（米村耕平・伊藤裕康両氏）のほか、北海道教育大学釧路校（木塚雅貴氏）・岐阜大学（巽徹氏）を含む計4件の話題提供を軸に、ワークショップを開催した。このワークショップはおおむね年1度本センター第二部門が企画して開催しているものであるが、今年度は特に「大学院」「教科実践力」をテーマとしてこのプロジェクトに併せる形で開催した。このワークショップに

については、別途報告書を編集している。

④. 研究会「信州大学・大学院 GP の取り組みについて」の開催（2月1日）

教科専門・教科教育を横断的につなぐ「授業研究アリーナ」の構想を打ち出し、2007年度の大学院 GP に採択された信州大学教育学研究科の取り組みについて、中心メンバーである橋本光明氏（同大学教育学部教授）に話題提供をいただいていた研究会を開催した。この関連資料は、本報告書のⅡ－4に採録されている。

上記①・②・④の成果と、関連する資料とを合わせ、今年度の本プロジェクトの報告書としてこのたび編集を行うこととした。2007年時点における、教育系大学院の教育改革の有り様を知る手がかりとして活用されれば幸いである。

（岩田康之）